

HIV・エイズを通して世界について考えよう

目的: 写真を読み解くことでザンビアのHIV・エイズの現状を知る。異なる地域で生きている人々に目を向けながら日本と世界の違いを学び自分達に出来ることを考えていく。

対象: 高校生

時間: 50分

準備するもの: 世界地図、写真(89頁～91頁参照)、付箋紙、ペン

学習の流れ

時間(分)	学習者の活動	進め方とポイント
導入 5分	写真からどこの国か考えさせてザンビアについて説明し、ザンビアの HIV・エイズの課題につなげる。	・写真1: 世界地図からザンビアの場所を理解させる。 ・写真2: ザンビアの課題の HIV・エイズについて写真から読み解いていくことを伝える。
展開 35分	配られた写真をグループで観察する。 各グループに異なる写真1枚ずつと、付箋紙とペンを配布する。 気づいた事、疑問に思ったことはどんどん付箋紙に書いて張る。どの場面の写真か考える。 写真と付箋紙の言葉を見せ、どのような写真だったのか発表をする。 教師による写真の解説と「子どもの人身売買」の読み合わせを行う。	<3～6の写真を見るポイント> ・どんな人や物が写っているんだろう? ・場所(建物や家具、背景から考える)はどこ? ・場面(何をしているのか、人々の関係は?) ※自分たちの自由な発想で考える。 <発表のポイント> ①気づいた事 ②どの場面での風景か ③自分たちの感想 (3点を入れて発表) ・写真の解説は HIV・エイズとつながっていること ・貧困地域では HIV・エイズが世界的な問題となっていることを理解する。
まとめ 10分	振り返り 授業を通して、気づいたことをグループや全体で共有する。	世界の HIV・エイズの現状を知り、 ①今の自分たちにできること ②将来やりたいこと の2点を考えさせる。

【子どもの人身売買】

①インドに輸出される少女

売春宿のオーナーや客の要求を拒めば激しい暴行が加えられ、むりやり売春をさせられます。オーナーは暴力団と手を組んでいて、現地警察とも仲間である場合が多く、逃げ出すことができません。インドのHIV感染者は500万人以上と推定されていますが、売春宿で働く女性の半数以上が感染していると言われ、性産業が最大の感染源となっています。HIV感染を心配する客は、経験が浅い少女であれば、HIVに感染している確立が低いと考えていることも、若い少女が好まれる理由です。ネパールでは、人身売買される少女の家庭は親も読み書きできない場合が多いという調査があります。人身売買が多いところでは基礎教育が欠けているために、搾取されやすくなっていることが明らかです。ネパールからインドに人身売買された約30万人の性産業従事者の大半が16歳未満だと報告されています。年間にすると7000人の子どもが売買されていると見積もられています。

②エイズ急増と少女達

東南アジアの性的搾取で特徴的なのは、大変若い被害者が多いことです。10歳以下で売られ、10歳くらいに

なると客を取らされます。その背景には、処女信仰とエイズの広がりがあります。カンボジアでもエイズが急増し、アジア最大の感染国となっています。客は、相手が処女だったり幼く見えたりすればエイズに感染していないと考えるのです。その結果、なおさら客がコンドームをつけないことになります。エイズの症状がでると売春宿からは追い出されますが帰る場所はありません。売春をしていたという前歴があり、さらにエイズとあては、親元に帰っても厄介者扱いされるだけだからです。

③手足の麻痺とHIV感染

客の払った金は、すべておかみに奪われ、ジーナの手元には1ルピーたりとも入ることはありませんでした。与えられるのは、粗末な食事と数枚の衣類のみ。いっさいの自由を奪われ、不衛生きまわりないこの売春宿で、性の奴隷として6年あまりも働かされたのでした。しかしある日、ムンバイ警察によるカマチプラの売春宿の摘発があり、幸運にもジーナは救出されます。そして、国境でネパール警察に引き渡され、保護されました。しかし、そのとき、恒常的に加えられた暴力によって、ジーナの両手足はまったく機能せず、歩くことも、自分で食事をすることも出来なくなっていました。そして、医療診断の結果、HIV感染が判明しました。保護されて以降、ジーナはリハビリを重ね、しばらく後には自分でお茶を入れ、伝い歩きし、顔を洗えるまでに回復しました。そして、笑顔も取り戻し、文字の勉強や職業訓練を受けるなどして、前向きに生きようとしています。しかし、心の傷とHIVという思い病気を生涯かかえて生きていかねばならないという現実は変えようがありません。

学習後の展開:

- ・HIV・エイズ啓発活動を広げるために個人だけでなく学校でできることを考える。
- ・世界の現状を理解し、将来やりたいことを自分の夢と重ねて考える。





④

LOST MOTHER		LOST FATHER		BOTH	
GIRLS	BOYS	GIRLS	BOYS	GIRLS	BOYS
2	2	11	7		2
5	3	6	8		1
5	5	14	13	2	1
6	3	23	26	5	1
12	6	24	17	2	2
5	8	12	18	6	9
7	11	28	21	7	10
2	0	1	0	1	0
0	1	3	6	3	1
4	39	122	116	26	27
AND TOTAL: 374				BOYS: 182	GIRLS: 192

ENROLMENT

OFF-L
LUSAF

EMIS

GRAD

MINISTRY O
PRIMARY A

FIRST TERM	
Open	Mc
Close	Fri
New Year's Day	Tu
Youth Day	Fr
Women's Day	Tu
Good Friday	Fr
Labour Day	Si
Residents Days	M
Working Days	W
Length of Holiday	8
SECOND TERM	
Open	3

2013/08/05 12:01

<写真解説>

①青空教室

コミュニティースクールに通う子どもたちは教室が足りなくて低学年は外で授業を行っている。先生が必死に説明していますが黒板から離れている子どもたちには指示が伝わっていない。

②ストリートチルドレン

ザンビアのストリートチルドレンと呼ばれる子どもたち。教育を受けることのできないストリートチルドレンが成長して薬物に手を染めたり HIV に感染し、その子どもにも HIV が感染するという負のスパイラルを生んでいることが、ザンビアの貧困の原因の一つに挙げられている。

③石鹸作り

この写真は JICA 隊員が集落で仕事をしていない女性を集めて石けんづくりを教えている様子。石けんづくりの後には必ず、プリントなどで HIV・エイズの知識を勉強させて啓発活動を行っている。地元の人も、石けんづくりと HIV・エイズ教育を合わせることで勉強に取り組むようになってきた。

④病院の待合室

この写真は HIV・エイズ啓発活動のための診療所の様子です。建物内に収まりきらずに外まで列を作っていることもあるようだ。人手が足りなくて薬の調合は清掃員の方が行っている現状があった